

Toolkit on combating LGBTQ directed hate speech on-line

LGBTQに向けられた「ヘイトスピーチ」
ネット上のヘイトスピーチと
闘うためのツールキット

“LGBTの人々に対する憎悪や差別を奨励し広め駆り立てることが合理的に判断される、メディアやネット上の全ての表現と戦うため、加盟各国は適切な手段をとるべきである。そのような「ヘイトスピーチ」は、いかなる場所でも、禁じられ、公に拒絶されるべきである。”

*Recommendation CM/Rec(2010)5

of the Council of Europe Committee of Ministers



出版について

「ネット上のLGBTQに向けられたヘイトスピーチと戦うためのツールキット」は、2013年1月にポーランドのワルシャワで行われたワークショップの期間中に、「ネットのヘイトスピーチと戦うプロジェクト」のANSOの委員会によって準備された。ワークショップの参加者は、専門家の監督のもと、LGBTQの若者たちへのネット上のヘイトスピーチの起源と影響について議論し、有害な現象と戦うための効果が期待できる戦略を開発した。

プロジェクトはヨーロッパ青年基金によって資金提供された。

この出版物の内容は、著者たちの視点と意見のみを反映したものである。

イントロダクション

言論の自由は基本的な人権の一つである。しかし、それが、他の人々の自由や尊厳、そして安全を脅かし始めたとき、その境界の見つけ方は？

自由な言論がヘイトスピーチ、つまり、人間というものが、傷つきやすい他の誰か（汚名を着せられた集団のメンバーか、そう思われている人）を脅したり、虫けらのごとく扱うために使う最も残酷な道具の一つに取って代わる時をどの様に定義するか。

憎しみに満ちた行動と言葉によって、LGBTQの若者の間に自殺と自殺未遂引き起こし、それにより打ち鳴らされた警鐘が、ANSO(北欧LGBTQ学生組織組合)に対応を促した。

自由な言論が、少数派グループの尊厳に深刻な危害を引き起こすだけでなく、近代社会の欠くべからざる属性ー多様性と包含性による公益ーを毀損するタイプの言論に変質するとき、私達は立ち上がり「NO」と言うべきなのだ。

そして私達は皆、ヘイトスピーチの出現を終わらせる為の道具を持っている。たとえ、私達自身が本当はどれだけ力強いかに気がついていないとしても。

このパンフレットで、あなたは規模を問わず、私達それぞれが、精神的な性的指向、性自認、性別表現によらず、人間の尊厳を救い、皆に対する絆と尊敬をもたらすために取ることができる手段を見つけるだろう。

このツールキットで、あなたは、あなた自身のバックグラウンドに容易に適用可能な戦略を見つけるだろう。つまり、ヘイトスピーチのような精神的な暴力に反対するために、皆が取ることが出来る簡単な手段として。

定義

○ ヘイトスピーチ

違法である。ヘイトスピーチは、一つ以上の特徴（例えば、障害、民族、性別、人種、宗教、性的指向などによって）に基づいて、個人もしくは集団を虐待若しくは貶める何かしらのコミュニケーションである。

ヘイトスピーチは、法律で禁じられている何らかの言説、仕草、行為、文書や展示である。何故なら、それは個人や集団に対する暴力や偏見を助長したり、貶したり脅したりするからである。

○ 自由な言論

言論の自由は、意見や思想を伝える政治的権利である。実際問題として、言論の自由に対する権利はいかなる国でも完璧というわけでは無く、その権利は通例、制限の対象となる(中傷、猥褻、その他により)。

表現の自由の権利は世界人権宣言の19条に基づく人権として認識され、国際人権法の中の**市民的及び政治的権利に関する国際規約**(the International Covenant on Civil and Political Rights : ICCPR)の中で、おおよそ次の様に認識されている。

全ての人々は干渉されることなく意見を持つ権利を持つ。そして、全ての人々は表現の自由を持つ。この権利は、領域、口頭や書面、芸術の形態、彼の選択するどの様なメディアを通じても変化するものではなく、全ての種類の情報や思想の探索、受信、伝達を含むものである。(中略) これらの権利の行使は、他の人々の権利や名誉を尊重することや、国家の安全や公共秩序(公の秩序)、公共の健康とモラルを守ることが必要な時、特別な義務と責任を負う。そして、それ故に確かな規制の対象となる。

○ 誹謗中傷

誹謗、悪口、名誉毀損などとも言いが、(文書、放送、その他の方法で公開された言葉により)個人や集団に対し、ネガティブな、劣っているという印象を付与するであろう声明や主張を発したり、伝えたりすることである。これはまた、誰かにより別の誰かについてなされた、何らかの侮蔑的な発言であるかもしれない。そしてそれは、真実かどうかに関わりなく、公にされ伝わっていく。慣習法では、通常、この主張が誤りであり、公開されたものが誹謗中傷された被害者以外の第三者に伝えられることが要件である。

慣習法の範囲では、誹謗中傷は悪意のある、誤った、そして中傷的に発せられた言葉や報告によるものである一方、名誉毀損は文書やイメージの様な他の何らかの形態のコミュニケーションである。

○ ストリーキング

ストリーキングは通例、個人やグループによって行われる、別の個人に対する望ましくない執着的な注目に関して使われる用語である。ストリーキングの振る舞いは、ハラスメントと脅迫に関係し、犠牲者を直接追いかけることや彼らを監視することを含むだろう。

○ いじめ

いじめは他の人々を虐待あるいは脅迫するため、暴力を行使したり威圧したりすることである。それは、口頭の嫌がらせや脅し、肉体的な暴行や強制を含むかもしれないし、特定の犠牲者に対して繰り返し向けられるかもしれない。おそらく、人種や宗教、性別、性的思考や能力を理由にして。いじめは、こうした虐待の基本的な三つのタイプ（感情によるもの、言葉によるもの、そして肉体的なもの）を含む。典型的には、それは脅迫のような微妙な強制の手段を伴う。

いじめは人類が互いに交流し始めるいかなる文脈においても、対面でもネットを介してでも、起こりうる。

ヘイトスピーチの若者への影響

ヘイトスピーチは、LGBTQIのコミュニティに損害を与えるような効果を持つかもしれない。言葉は人を傷つけ、そして特に、もしあなたが自分のアイデンティティを探しているさなかの若者だとしたら。現在、FacebookやTwitter、Tumblrなどのようなソーシャルメディアは、インターネットを支配したことで、あなたの考えを言葉で表現することは容易になった。人々は、注意深く考えることやそれが他の人々に対してどのような効果をもつかの知識もなく、ネットに書き込む。ネット上のいじめは珍しいことではなく、子供やティーンエイジャーの間ではほとんど一般的なことであり、いじめはヘイトスピーチの一形態である。

言葉は人を傷つけることができる。それには、おおよそ25%のLGBTQIの学生と大学職員がその性的指向のために嫌がらせを受けているという証拠がある。多数の研究が、LGBTQIの若者が異性愛者の若者より高い自殺未遂率を示すことを明らかにしている。自殺防止リソースセンターは、これらの研究を総合し、年齢と性別のグループに基づき、30%から40%のLGBTQIの若者が、自殺を試みていること、そして自殺未遂のほとんどはいじめによるものであると概算した。

人権と立法

人権という考えは、西ヨーロッパの哲学と宗教において見出される思想から始まっている。人権についての近代の西洋的思想は、ヨーロッパでの啓蒙運動に始まった。16世紀には、全ての人は自分の宗教と指導者を決める宗教的および政治的権利を持つと提案した人もいた。この種の考え方は英国の内戦において重要だった。戦後、哲学者であったジョン・ロックは、人々がこれらの権利を持つべきだと主張した。彼はそれらを「人権」と呼んだ最初の人々の一人だった。これら考え方はまた、18世紀の米国の革命とフランス革命において重要だった。

ジョン・スチュアート・ミルは人権について考えた19世紀の重要な哲学者である。彼は、人々は彼ら自身の肉体と精神をコントロールできるべきだと言い、三つの特別な考えについて語った。

言論の自由

集会の自由

それが他人を傷つけないのであれば、人は望むことをする自由（仮にそれが他の人々が悪いことだと考えたとしても）

ヘーゲルは自由意志について語った哲学者である。彼はまた、人を自由にするものについて語った。それは、人が真の自由をもつために、他の人々と確かな関係を持たなければならないというものである。彼によると、人は次のことができなければならない。

財産をもつこと

他の人々と契約を交わすこと

人々と道徳上の約束をすること

誰かと暮らすこと

法律により保護されること

政府に対して発言すること

人権法

人々が、人権は重要であると考え、そのために国はそれを守る法を作る。この法は、政府が人々の基本的な権利を奪うことができないと言っている。そしてそれは、他の人々の権利を奪う人を罰するように計らう。

いくつかの大きな政治組織は、人権を奨励する声明を出している。これらは法律ではないが、われわれに影響があるものだ。もし、集団や国がこれらの声明に従わない場合、他の人々は彼らを非難するだろう。そして、人々は彼らと話したり、共にビジネスをしたり援助したりするのをやめることになるだろう。

人権法が書かれている重要な場所として、憲法がある。合衆国とフランスの憲法は、人権に基づく最古の法の二つである。

1948年に、国連は世界人権宣言を発布した。これは、国連が人権を信じることを述べた広く尊重された文書である。これは法律ではないが、次の二つの重要な協定の基礎となっている。

国際人権法の中の市民的及び政治的権利に関する国際規約（The International Covenant on Civil and Political Rights）

経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（The International Covenant on Economic, Social and Cultural Rights）

これらは国連人権協定、つまり人々や国々間の合意である。これら二つの協定に署名した国々は、それらに従うことに同意する。

それらの宣言と協定に加え、国連と他の国際組織によって作られた多くの条約と文書が存在する。それらの条約と文書は、「国際人権法」と呼ばれる。

ヨーロッパ人権協定（旧人権の保護と基本的自由に対する協定）は、ヨーロッパにおいて、人権と基本的自由を守るために制定された国際条約である。1950年に、そのとき新たに形成された欧州議会によって起草され、1953年9月3日に施行された。全ての欧州議会のメンバーである国家は、協定の当事者であり、新しい加盟国には早期に協定に批准することが期待される。

協定はヨーロッパ人権法廷を設立し、協定のもと、締結国により自己の権利が侵害されたと感じた如何なる個人も、法廷に訴えることができる。侵害を認めた判決は、関係する国々に対して拘束力を持っており、国々には判決を執行する義務がある。欧州評議会の閣僚議会は、判決の執行を、特に、申請者が被った損害に対する補償において、法廷によって裁定された金額の支払いを確認するため、監視を行う。人権侵害から個人を守るための法廷の設立は、国際人権協定にとって革新的なことである。それが個人に国際的な場（伝統的に、国際法においては国家だけが俳優であると考えられてきた）で有効な役割を与えるからである。ヨーロッパの協定は、今現在も、そのような高い水準の個人の人権の保護を提供する国際人権協定としては、唯一のものである。締結国はまた、他の締結国に対する訴訟を起こすこともできるが、この力は滅多に使われない。

性的指向と性的アイデンティティ

性的指向と性的アイデンティティの権利は、**国際人権法の中の市民的及び政治的権利に関する国際規約（ICCPR）**の17条および26条とヨーロッパ人権協定の8条および14条の様な、様々な人権協定において定義されるプライバシーを尊重される権利と「他の属性」のグループに差別されない権利に基づく性的指向と性的アイデンティティの表現に関係する。

宗教的信条により、多くの人々が一般的に人権を支持すると主張する一方で、LGBTの権利が人権であることを否定している。そのため、人権の一般的な原理の様々な防衛において、LGBTの権利は注目されている。もし人権というものにおいて、単にある宗教や文化的偏見によって、あるグループの基本的権利を除外することが可能であるとするなら、私達は普遍性の原理は人権の外にあるとして見ることになる。そして人権は、単にある歴史的価値を反映した一連の決まりに変化する。

ホモセクシャルは76の国で違法であり、そのうち7カ国では極刑に処せられる。プライベートで合意の上の成人の性的関係を、特に体罰や死刑制度を持つ国で違法とすることは、LGBTの人権提唱者達の主要な関心事のひとつである。

同性愛関係、LGBTの養子縁組、性的指向、兵役、移民の平等、反差別法、LGBTの人々に対する暴力に関するヘイトクライム法、ソドミー法、反レズビアン法そして同性間の活動に対する平等な承諾年齢などが他の関心事として含まれる。

性的指向と性的アイデンティティの権利に対する地球憲章は「ジョグジャカルタ原則」の形で、その著者達がそれらを国際人権法制定法とLGBTの人々の経験に関連する判例に出願した29の信条をまとめたものである。この原則は、アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイを共同スポンサーとした、2007年11月にニューヨークで行われた国連のイベントで提示された。

この原則は性的指向と性的アイデンティティについてフランスの提案した国連宣言に影響を及ぼして認められた。そしてそれは暴力、違法化そして死刑を終わらせることに焦点を絞り、同性婚や家族をもつ権利についての対話を含まない。この提案は、当時の国連加盟国192カ国のうち、全てのEU加盟国と米国を含む67カ国によって支持された。提案に反対する別の声明が、シリアによって着手され、イランや北朝鮮と同じようにアラブ連盟の27カ国全てを含む57カ国の加盟国によって署名された。

〇 よい行動と悪い行動

オンラインでコミュニケーションをするとき、現実の生活とは異なる交流がある。はじめヘイトスピーチのように聞こえるかもしれないことが、ちょっとした皮肉を誤解したのかもしれない。文字ベースのメディアで交流するとき、ボディランゲージ、声の調子などの不足などが、コミュニケーションを平板化する。願わくば、そうした誤解は対話を通じて解かれるべきである。ユーモアは、文化的、社会的背景や相手の視点を理解しようと試みることに同様に重要である。

同時に、あなたを怒らせるかもしれないことと、社会的契約の破壊と実際のヘイトスピーチの間には線引きがなされる。他者と経験を共有することは、あなたの重荷を共有することと同様に、その中身を理解する手助けをしてくれる。

これに加え、左の頬を差し出すことと、仕返しをすることのバランスがある。自分を犠牲者と位置づけることと「狼だ」と叫ぶことはどちらも悪いやり方である。

〇 自分でやること

■ モニタリング

人権モニタリングは、人権侵害を防ぐための情報の積極的な収集と確認、即時使用を言い表した広範な用語である。これらの侵害は適切な法規制の欠如と同様、法律とその適用の実施の両方に寄って引き起こされるかもしれない。モニタリングには様々な手段がある。出来事や政府の方針についての情報を集めること、訴訟や選挙やデモや公聴会を観察すること、刑務所や老人ホームなどを訪ねること、目撃者や犠牲者や活動家や組織を訪ねること、立法や新聞発表やメディア刊行物や文書や通信を分析すること等々。モニタリングの基礎は方法論と規則性と一貫性である。モニタリングの狙いは、状況を示す価値のある確実なデータを所有することと、勧告と対処のための根拠を保有することである。

オンラインヘイトスピーチのモニタリングの例としては、同性愛者嫌悪に対するキャンペーン-ポーランドのLGBTのNGOが作成した、ポーランドのネットメディア（ニュースポータル、Podcast、ネットラジオ、ブログ）上でのヘイトスピーチの収集と共有yahooの電子メールグループがある。5〜10人のメンバーで始められたこのグループは、LGBTの状況に関連したオンラインメディア上で、憎悪のある声明と人権侵害を含む言葉とリンクを発見して告発する数百人のメンバーをもつまでに成長した。この組織とグループの全てのメンバーは、これらの電子メールを受け取り、そしてそれは、レポートや主張の中でのその使用を可能にし、また、卒論や修論のような他の文書にもまた使用することができる。

■ 管理者への報告

ネット上のヘイトスピーチを報告することは長い法的手続きを必要とするものではない。あまり形式的なものではなく、例えば、ウェブサイトの管理者にコンタクトして、そのヘイトスピーチを報告するのも一つの方法である。これを通じて、特定のウェブサイトから少しばかりのクリックによりヘイトスピーカーを排除する手助けができる。

一つの例はFacebookである。Facebookは活発にヘイトスピーチとの戦いを手助けしようとしている。Facebookは、LGBTQの人々のため、彼らのNOS（ネットワークサポート）において、GLAAD（誹謗中傷に対するゲイとレズビアンとの同盟）やGLSEN（ゲイ、レズビアン、ストレートのネットワーク）のようなLGBTQの特定の組織と協力している。その上、Facebook上の内容や人々について報告することをより容易にしてきた。もし、Facebookのページがマイノリティに対して憎悪に満ちていたら、単に「ページ報告」ボタンを押し、「その他/侮辱的な内容」を選ぶ。そうすると、「ヘイトスピーチか個人攻撃を含む」を選ぶことができる。

「この人物を報告/ブロックする」をクリックすることによって個人に対しても同様のことができる。単に「レポート送信」を選び、その後「○○のアカウントを報告する」か「○○によって共有された内容を報告する」のどちらかを選ぶ。

ほとんどのニュースページと討論サイトにおいて、応答、共有または報告するための同じような選択肢がある。

オンラインで利用可能な別の選択肢として、公式の機関にヘイトスピーチの報告をすることがある。様々なウェブページを通じて、経験を共有しデータを集めるための選択肢をもっている。データの収集を通して、公的機関がヘイトスピーチと戦うのに役立つかれらの資源をどこに向けるべきか知ることができる。これはほとんどの場所で、匿名で行うことができる。

（平等化組織）オンブズマン/監視組織/LGBTのNGOへの報告 （訳注：文例）

親愛なる〇〇様

あなたのウェブサイト/フォーラムがヘイトスピーチの温床になっています。

[問題を説明：何が、どこで、誰が]

性別や性的指向などを理由に個人や集団を貶めたり罵ったりする表現はヘイトスピーチであり許されません。あなたのウェブサイト/フォーラムで提供される情報は、性的マイノリティの人々に対する偏見を引き起こし、差別を助長しています。

この問題をできるかぎり速やかに解決するようにお願いします。そして、差別的な情報がウェブサイト/フォーラムに再び現れないようにすることで、あなたが将来において模範となり、今後差別を助長するような書き込みに注意し続けることを望みます。

よろしく御願います。

敬具

[名前]

[組織/地位/または単に「憂慮する市民」]

Dear Sir/Madam/[name],

It has come to my attention that your website/forum works as a platform for hate speech online. [Describe the issue: What, where, who]

Please note that any form of communication that abuses or puts a person or a group down on the basis of their gender, sexual orientation or other is considered hate speech and should not be tolerated. The information provided/shared on your website/forum encourages prejudice and enforces stereotypes against LGBTQIA people, and I kindly ask you to take action to eliminate this issue as soon as possible.

I hope you will show good example in the future by not allowing such information to appear on your website/forum again, and remain vigilant in taking immediate counteraction when and as they occur.

Thank you in advance.

With regards,

[name]

[organization/position/or just "concerned citizen"]

アウトロ

私達が毎日のように使う言語は、私達の社会的意識を形成し、私達全てが生きている世界を形成する。さらに、言葉は創造するだけでなく破壊することもできる。私達の世界とそこに暮らす人々がこの上なく重要な存在であり、言論の自由が人権を脅かすようになるとき、私達は行動をためらってはならないのだ。

あなたが読んだこの短いツールキットは、ネット上のヘイトスピーチに対して「No!」というための多くのやり方の中から、いくつかを提示した。あなたはヘイトスピーチの見分け方を学び、様々な方法を使って、現れるかもしれない様々なヘイトスピーチに対処する方法を学んだ。私達は、このパンフレットに集められた情報が、あなたやあなたの組織、家族と友人の役に立ち、そして世界中の全ての活動家達がヘイトスピーチに対して立ち上がり、全ての人々の尊厳のために戦うのに役立つことを望む。

もしあなたが、ヘイトスピーチの様な心理学的暴力と戦うのに役立てる事が出来る、他の素晴らしい例を知っていれば、どうかそれらを私達(anso@anso.dk)に教えてください。私達は、それらがこのツールキットの次の版の、良い実行と使いやすい例として加えられるようにします。

LGBTQIAに向けられたネットのヘイトスピーチを一緒に止めましょう！